

第2回小牧市教員の多忙化解消推進委員会会議録

1 開催日時	令和6年12月26日（木） 午前10時00分から
2 開催場所	小牧市役所東庁舎 本会議用控室
3 出席	長谷川委員長、富田副委員長、前原委員、丹羽委員、石黒委員、光部委員、櫻本委員、大久保委員、合田委員、吉田委員
4 欠席	小澤委員
5 事務局	■学校教育課 吉田課長、采女管理指導主事、高堀指導主事、山下係長 ■教育総務課兼学校教育ICT推進室 丸藤課長
6 傍聴者	0人
7 議題	（1）小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況について （2）教職員の働き方改革保護者向け文書について （3）その他

<開会 午前10時00分>

1 開会

（吉田課長）

皆さま、本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今より、

「第2回小牧市教員の多忙化解消推進委員会」を開会いたします。

先回に引き続き、今回も司会を務めさせていただきます。

小牧市教育委員会学校教育課長の吉田です。

よろしくお願いいたします。

<欠席者について>

本日は小牧南小学校小澤委員が欠席です。

<資料確認>

本日配布させていただきました資料として

- ・本日の次第
- ・小牧市教員の多忙化解消プラン進捗状況
- ・市内小中学校在校時間記録
- ・超過勤務45時間超の主な理由
- ・教職員の働き方改革保護者向け文書
- ・在席表

でございます。

不足などがございましたら、お申し出ください。

＜傍聴について＞

本委員会は、先回確認させていただいた通り、「小牧市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき開催するものでございます。そのため、個人が特定可能な議題などを除き、原則公開として開催させていただきます。現在この会議の傍聴者はございません。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。開会にあたりまして、采女学校教育課管理指導主事よりあいさつを申し上げます。

（１）あいさつ

（采女管理指導主事）

本日は第２回小牧市教員の多忙化解消推進委員会にお越しいただきありがとうございます。

さて、小中学校では１２月２３日に終業式を終え、２学期の学びの成果や、一人一人が頑張った事柄など、通知表を通して子どもたちや保護者の皆さまと振り返ったところであります。

また、街に目を向けると、色鮮やかなクリスマスから、新年を迎える準備に転じている様子が伺えます。

来年は「巳年」。特に２０２５年の巳年は６０年に一度巡ってくる「乙巳（きのと・み）」の年であるそうです。諸説ありますが、己巳（きのと・み）の年は「新しいものが生まれ、成長していく年」と言われているそうです。

教員の長時間労働が問題視されてから、しばらくの月日がたち、本市においても、教員の多忙化解消に向けて様々な取組を模索しております。

このことは、単に教員の労働時間を削減することにとどまるのではなく、子どもたちの有意な成長を、社会全体がどのように見守るのか、その仕組み作りにチャレンジしていると感じています。

委員の皆さまにおかれましては、本日の会が、乙巳（きのと・み）年にあやかり、教職員の多忙化解消に向け「新たに成長できる一歩」を踏み出す会になりますよう、限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見を頂戴できるとありがたいと思います。

（長谷川委員長）

小木小学校長長谷川です。年末のお忙しいところ皆さまにお集まりいただきありがとうございます。小木小学校では２３日に終業式を迎え、子どもたちは無事に２学期を終えることができました。２学期では子どもたちの学習とともに教

職員の働き方改革について校内で検討・取組をしました。本日は事務局でまとめた記録を確認し3学期や来年に向けてご意見をよろしくお願いいたします。

(吉田課長)

ありがとうございました。ここからの議事の取り回しにつきましては、長谷川委員長にお願いしたいと思います。委員長よろしくお願いいたします。

2 議題

(1) 小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況について

(委員長)

それでは、議題(1)小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況について、事務局より説明を求めます。

(高堀指導主事)

資料 小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況についての説明

(委員長)

只今、事務局より「小牧市小中学校在校時間記録」「超過勤務45時間超の主な理由」を基に説明がありました。

今後の取組について委員の皆さまから忌憚のない議論を交わしたいと思います。何か意見はございますか。

(前原委員)

資料1 小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況(4)業務改善と環境整備に向けた取組の下から3番目「専門スタッフ等の配置の拡充」について、人員の増については分かるが元は何人いたところから増員しているのか。

(高堀指導主事)

学校生活サポーターは18名から3名増員し21名、スクールソーシャルワーカーは4名から2名増員し6名ですが4名で活動し2名は募集を行っているところです。

(前原委員)

子どもたちの学習環境・生活環境を整えてあげることはとても大事で、ソフト面・ハード面の両輪が必要です。ハード面は個別最適の学びのため一人一台端末を配備することやエアコンを整備することで、ソフト面は専門のスタッフが子どもたちの学びと生活を支えることです。ぜひ、専門スタッフを増員して、子どもたちの居心地のいい学級づくりを支援して欲しいです。

(石黒委員)

資料3「超過勤務45時間超の主な理由(45時間超の職員が在籍する学校が回

答) について実際 4 5 時間超の学校は何校あるのでしょうか。

(高堀指導主事)

月ごとでまとめています。8 月は夏季休業なのでありませんが、他の月では中学校はほぼ全校です。小学校は行事によって 0 であるところもあります。集約して資料 3 でお伝えしました。

(丹羽委員)

先生方に改善されたかなどのアンケートはとっていますか。

(高堀指導主事)

個別に市教育委員会からアンケートはとっていませんが、各校で管理職による面談・声掛けを通してどのようなことに困っているかなど把握するとともに、業務改善に向けてのアドバイスを行っていただいています。

(丹羽委員)

この会議の目的は時間を減らすことだけでなく、子どもたちのために先生方が時間を取れるようにしよう、先生方の精神・心の負担を減らそうということであると考えています。そこで、4 5 時間超をしたから駄目なのではないかとプレッシャーを与え、先生方の負担になるのであれば、この調査はやめたほうが良いと考えます。効果を受ける先生方の直接的な意見を聞いてフィードバックするべきと考えました。

(富田委員)

同感です。この計画が整備されてから年数が経っているので、多忙化が解消されているのか、メンタル負担がないか、一度アンケートをとることはどうでしょうか。

(前原委員)

同感です。子どもたちのソフト面の環境整備で大事なことに、担任の先生が元気で明るくしていることと考えます。業務をプラス思考で行っているかということが大事で時間だけでは分からないと考えます。

(合田委員)

教員が何に困っているかについてですが、ひとりで抱え込むことがつらく、また周りも余裕がないとサポートできないという点がつらいです。しかし、先ほど議論に出ました専門スタッフによって担任がひとりで困っているところにサポートをいただけることはありがたいです。

(長谷川委員長)

ご意見ありがとうございます。では、先ほど 6 月 9 月 1 1 月の在校時間については少なくなっているとのことでしたので各校の取り組みなどがありましたら紹介をお願いします。

(大久保委員)

北里小学校です。9月の運動会を11月に移動させました。9月は余裕ができ、11月が忙しくなりました。また、6月と11月は成績処理が大変になります。前もって計画的に行うよう声をかけ、若い先生が悩まないように教務主任がアドバイスをしたことなどは結果につながったと思います。

(光部委員)

北里中学校で地域コーディネーターをしています。北里中学校では1学期のテストを2回から1回にしました。5月末から6月にある野外生活と修学旅行の準備ができたので良かったとの意見が先生方からありました。

資料3「超過勤務45時間超の主な理由」でテスト採点成績処理が昨年17.5%から今年18.8%に増加していることは他の要因があるのかと思いました。また、資料3で行事の準備等も19.6%から23.4%に増加しており何か負担があるのかなと思いました。

(長谷川委員長)

超過勤務45時間超の主な理由は45時間を超えていた時に校内で1つ選択をするため、%が上がったことは負担が上がったということではないと思います。いかがですか。

(吉田委員)

味岡小学校です。小学校で超過勤務45時間超の主な理由を学習指導にでき、力をいれることができるのはありがたいです。運動会を2部制にし、午前で終了しますが、子どもたちはいきいきとして、学級づくりにもいかされています。ICT機器整備によってロイロノートは事前に成績に結びつけることができます。また、教職員研修で教科書の価値を見直すよう話があり、授業展開をそれぞれ教員が作成するところ、手作りの教材でなく教科書を用いるようにしています。そのようなことで時間的余裕ができています。

(石黒委員)

超過勤務45時間超の主な理由の一つだけ選んでアンケートがとられているとのことでした。%の比較ができないのであれば、アンケートの取り方を変えていけないといけないのではないのでしょうか。何が大変な業務で超過勤務となっているのかという結果を出している視点で見えていましたが、業務負担感を測るのであれば、例えば項目に対して10段階評価にするなどアプローチを変えても良いのではないのでしょうか。

(高堀指導主事)

この資料は県の調査を活用している資料です。委員のおっしゃるとおり一人一人がどのように感じているかはちがいますし、学校内で超過勤務の理由をどれか一つを選ぶ方法では、状況はとれたとしても多忙・負担感をはかるための指標としてこの会議で利用するためには、検討の余地があるのかもしれない。

(石黒委員)

運動会などの行事が今年は11月に移動しており、昨年は9月となるとさらに比較がしづらいです。会議で多忙化解消に向けて話し合っていくためには、アンケート調査の内容を見直すと良いかなと思います。

(櫻本委員)

調査ばかり増えると負担になります。

中学校では、テスト作成や採点等、学年や教科で教員が相談をして取り組みます。また、時間外に必要があって保護者と連絡を取ります。義務教育を終える学年の生徒たちや家庭へ、例えば進路の関係で連絡をとることは非常に大事であり、超過勤務を理由に連絡を取らない教員はいません。

今月の要因は何だろうと考えると教員が何に困っているか振り返ることができます。

体育祭の時期をずらすことも工夫の一つだと思います。今年も来年も同じ種目をするのではなく、生徒会の意見を大切にしながら新しい種目を生み出すといった案を教員が出してくることはありがたいと感じています。若い人たちを含め、職場の仲間たちが苦しい思いをしていないか把握する手立ての一つとして、現在行っているアンケート等を活用していけたらと思っています。

(2) 教職員の働き方改革保護者向け文書について

(長谷川委員長)

それでは、教職員の働き方改革保護者向け文書について、事務局より説明を求めます。

(高堀指導主事)

保護者向け文書について説明。

(長谷川委員長)

事務局より保護者向け文書についての説明がありました。先ほど議論したこともふまえて、何か意見はございますか。

なし

(3) その他

(長谷川委員長)

その他について事務局より何かありますか。

(高堀指導主事)

特にありません。

(長谷川委員長)

これで、我々に与えられました議事については終了しました。事務局にお返しし

ます。

（吉田課長）

委員の皆さま、長時間にわたるご審議ありがとうございました。

それでは、これをもちまして、第2回小牧市教員の多忙化解消推進委員会を閉会いたします。